

# 発元掘ニュース

第 10 号

昭和 61 年 1 月 30 日

発行 財団 法人 いわき市教育文化事業団

## 久世原館

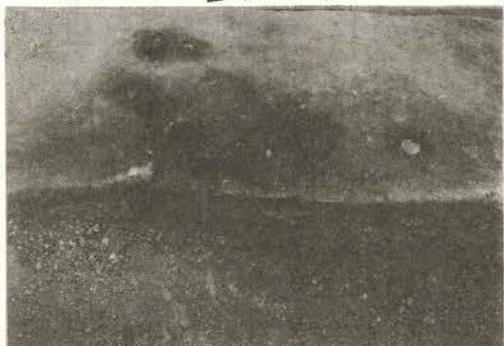
久世原館は、磐城第一原地内に所在する。この原地は、現在の久世原町へ面して位置する。ここには、古墳時代から平安時代にかけての遺跡があり、また、奈良時代の良縁寺跡もある。このあたりは、古くから開拓され、現在も農耕が行われている。また、この付近には、古墳時代の城跡が残されており、その構造を調査するため、これまでに数回の調査が実施されている。今後も、この遺跡の調査が継続される予定である。



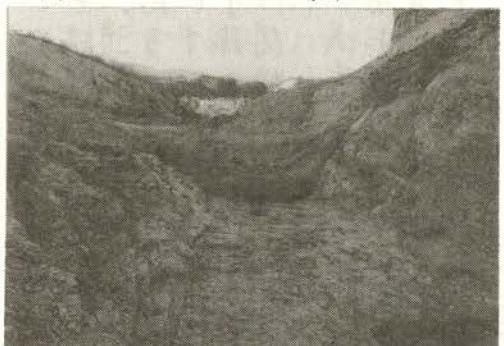
第一図 久世原館の位置 (5万分の1 図原寸使用)



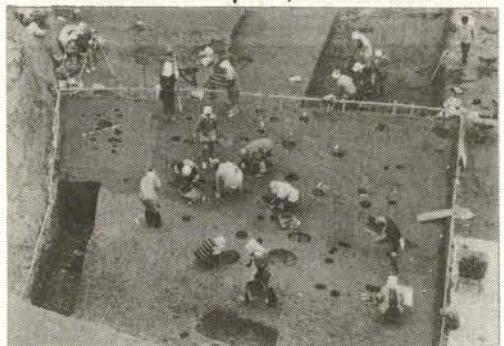
第二図 豊穴住居跡



第三図 カマド跡



第四図 空掘り



第五図 掘立柱建物跡

## 発見された遺構

時と間た例  
町館人室居、マリの一例  
は、アモれ、タマの正考  
はけにわ、タマの正考  
立陵が前使た。点終られ  
地内に以前使た。点終られ  
代しのこがで。

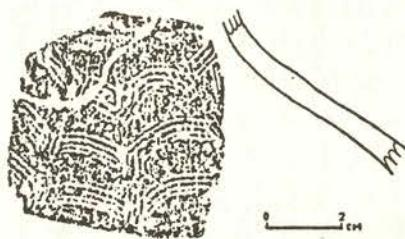
丘陵尾根付近れをれて、  
造方えられはれ、顕出われ  
は、アモれ、タマの正考  
立陵が前使た。点終られ  
地内に以前使た。点終られ  
代しのこがで。

穴住居跡は、掘邊の北が  
地内に以前使た。点終られ  
代しのこがで。

穴住居跡は、掘邊の北が  
地内に以前使た。点終られ  
代しのこがで。

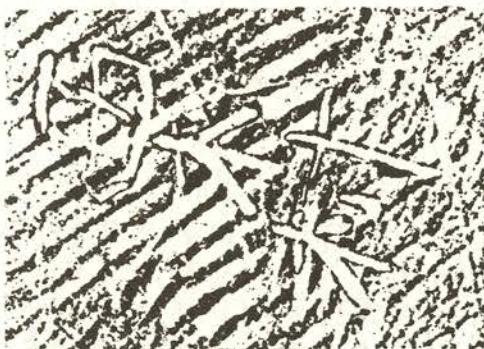
## 発見された遺物

弥生時代の土器  
右図の土器片は、調査範囲西端の谷部から出土したもので、弥生時代中ごろに造られた壺形土器の一部です。文様は重なり合う連弧文を用いています。



第六図 弥生土器片拓影

「栗村」と線刻された須恵器が破れ成り立った根柢に点たる接合部には「タマリ」と書かれています。  
資料は土器片のうち、斜面の裏面に「タマリ」の字が刻まれています。  
「栗村」と書かれた文字は、非常に珍しいものです。



第七図 須恵器片刻字銘拓影

香炉 玉陵南斜面裾部付近より出土。香炉は、花瓶や燭台と共に供養具の一つです。中国製（明治時代）であります。胴部には、鹿の絵を描き、「福」字を印刻しています。周辺から出土した遺物から15世紀中ごろに使用されたものと思われます。

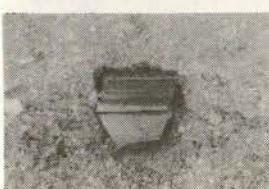


第八図 中国産の香炉

甕 常滑は、現在の愛知県常滑市に相当し、中世から焼かれます。形状を形成する際の変化が、時代によってあります。當時の甕は、15世紀中ごろの常滑出品と思われます。



第九図  
常滑産甕の部分



第一〇図  
常滑産甕の部分

## むかやまいせき

**向山遺跡**（いわき市好間町下好間字向山地内）  
 向山遺跡は、出土する土器、石器、骨器などから、古墳時代から平安時代にかけての住居跡とされる。遺跡の規模は、東西約100m、南北約80mである。  
 遺跡には、土器、石器、骨器などの出土品が多数見つかっている。特に、土器は、丸底の土器や、縦縞の土器などがある。石器は、石斧、石刀、石劍などがある。骨器は、骨針、骨環、骨管などがある。  
 遺跡の構造としては、土塁や土塀、土垣などが確認されている。また、土器や石器の破片が散在している。

## いし つか いせき

**石坂遺跡**（いわき市好間町中好間字石坂地内）  
 石坂遺跡は、いわき市好間町中好間道49号線遺跡の北端に位置する。昭和60年（1985年）に、第2次調査が実施された。この調査では、約100m×80mの範囲で、土器や石器、骨器などの出土品が確認された。  
 遺跡の構造としては、土塁や土塀、土垣などが確認されている。また、土器や石器の破片が散在している。



第一一図 向山出土土師器



第一二図 石坂検出住居柱穴

# 綱取貝塚

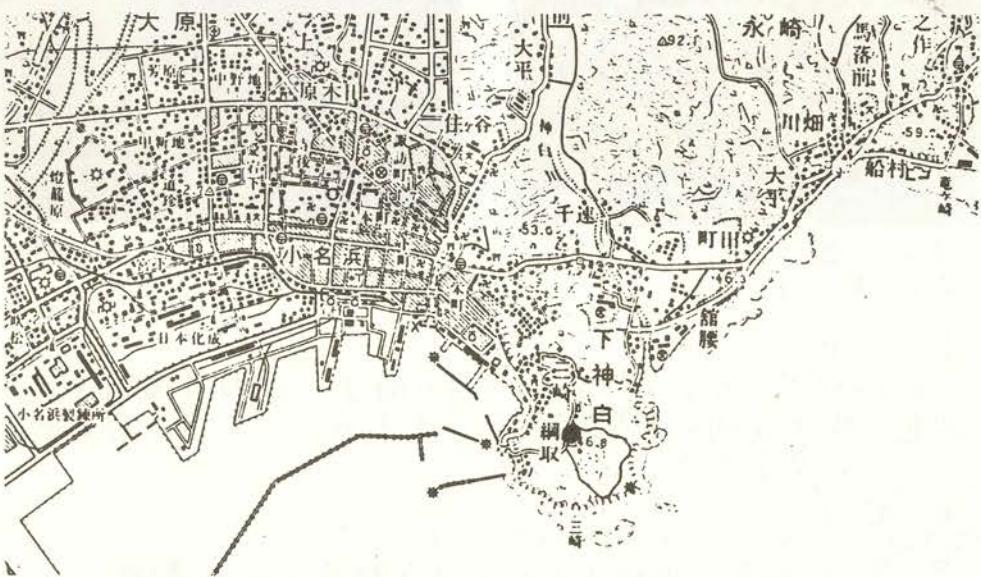
綱取貝塚は、いわき市、小名浜下三崎神白字大作地内に所在します。目の前に海上約60mの高さをもつ「いわきマリントワー」があり立っています。

この遺跡は、公園整備を契機として、昭和58年に第1次調査が始まり、昭和60年11月より第2次調査が開始されました。昭和60年11月より第3次調査が進行中です。

本貝塚は、今から約3,000年前の縄文時代後期の貝塚（人間や動物を埋葬したり、食べカスを捨てた跡）で、過去には貴重な資料として出土した骨角器などがあります。

第2次調査で発見された遺構は、縄文時代後期の埋納土坑（住居／棟、埋設坑）が最も多くあります。縄文時代後期の特徴的な施設が見つかっています。縄文時代後期の住居は、中央部には火炉があり、火炉を中心とする土器も多量出土しています。

また、土器以外の遺物として、石器（石斧、石鎌、石錐、敲石、凹石、石皿）や土製品（土器片錐、土器片円盤）骨片も出土しています。



第一三図 綱取貝塚の位置 (5万分の1図原寸使用)

( 6 )

〈網取貝塚から発見された竪穴住居跡が掘り上がるまで〉



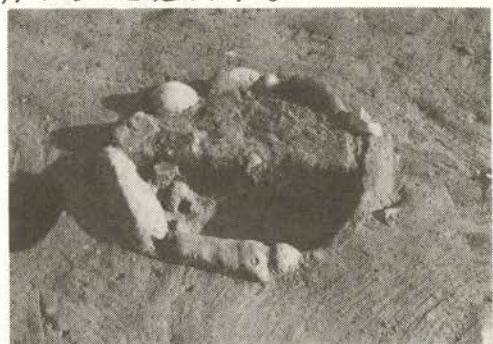
第一四図 竪穴住居跡を見付ける。



第一七図 竪穴住居跡から炉の跡を見付ける。



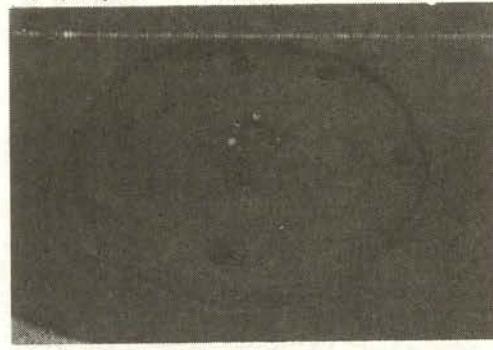
第一五図 竪穴住居跡内を掘る。



第一八図 竪穴住居跡内から見付かった炉の跡。



第一六図 竪穴住居跡内をさらに掘り進む。



第一九図 竪穴住居跡を完全に掘り上げる。

〈お知らせ〉

昭和61年2月2日(日)午前10時より網取貝塚第5次  
調査の現地説明会を開催いたしますので、お誘い合わせ  
の上、ご参集下さい。



発行  
編集

1986年1月30日

財団法人いわき市教育文化事業団  
福島県いわき市平字堂根町1の4 文化センター内  
Tel. (0246) 22-5431 内線254

とじておきましよう